

なかつら地区 河川を守る会

平戸市立中津良小学校

5年生 川口日南太くん 井上光さん 吉永まりなさん



故郷の川をきれいにする活動がきっかけで、 地区の人みんなが仲良しになりました。

平戸市の南部に位置する中津良小学校は、児童数29名の小さな学校です。木下毅教頭先生にお話を伺いました。「1クラスは多くても10名、4年生は1名だけという複式学級の学校です。でも子どもたちは学年を越えてみんな仲良く学校生活を送っています。まわりは豊かな自然に恵まれ、特に学校のそばを流れる中津良川には毎年多くの蛍が群舞して見事な景観をつくりだしています。今では『ホタルの里なかつら』で有名ですが、この美しい川も近年には生活排水などが原因で濁り、水生生物は減り、川に入って遊ぶ子どもたちの姿もなくなりました。そこで昔のような美しい川をみんなの力で取り戻し、守っていく活動を8年前から始めたんです。まちをあげてのEM泥団子クリーン作戦の結果、中津良川はかつての美しさを取り戻し、ふたたび多くの命を育むようになりました。」



地域からいただいた土にEMが培養された米のとぎ汁を混ぜ、みんなで楽しく泥団子をつくります。この日できたたくさんの泥団子は、数日間発酵させた後、みんなで中津良川に投げ込みにいきます。

5年生の子どもたち3人に感想を聞きました。「最初は団子が臭くてイヤだなと思ったけど、これで川がきれいになって蛍がたくさん飛んでいるのを見てとてもうれしかったです。おじいちゃんやおばあちゃんと仲良くなって、誰とでもきちんと挨拶ができるようになりました。それにまちのみなさんが

学校の行事に来てくれるのでとてもうれしいです。」

また蛍寿会会長の大石幸弘さんも「きっかけはEMの団子作りでしたが、子どもたちの毎日の登下校時にいっしょに歩いたり、学校の行事に参加するようになりました。みんな仲良しで大人も子どもも安心だし、なんと言ってもお年寄りがいちばん元気をもらっていますよ。」と笑顔で語ってくれました。



木下毅教頭

この日は地元老人会である蛍寿会の皆さんもいっしょに小学校の校庭に集まり、川の水を浄化してくれるEM(有用微生物群)泥団子をつくる日。



大石幸弘 蛍寿会会長

